

会 議 録

会議の名称	平成28年度 第2回 伊丹市国民健康保険運営協議会
開催日時	平成28年12月26日(月) 14:00～
開催場所	伊丹市役所 議会棟3階 第2委員会室
出席者	阪部委員、金川委員、藤本委員、池信委員、常岡委員、吉村委員、梁川委員、 千葉委員、里村委員、上村委員、細川委員、西川委員 (以上 12名)(順不同)
欠席者	中村委員、山下委員(以上 2名)
事務局	坂本健康福祉部長、藤本保健医療推進室長、岡本健康政策課長、 伊藤国保年金課長、他
会議の成立	委員総数14名のうち12名出席 <過半数出席のため成立する>
署名委員	藤本委員、千葉委員
傍聴者	0名
次第	1. 開会 2. 健康福祉部長あいさつ 3. 議題 (1) 伊丹市国民健康保険事業特別会計の財政運営のあり方について 4. その他(報告事項) 5. 閉会
備考	

議 事 要 旨

議題 (1) 伊丹市国民健康保険事業特別会計の財政運営のあり方について

(事務局より資料「平成28年度第2回伊丹市国民健康保険運営協議会資料」を説明)

里村 会長

ありがとうございました。前からのことで、皆さんよくご存知だと思いますけれども、収支を見通す上で流動的な要因が多すぎる、それから現時点における収支を見通した場合で、平成29年度には財政調整基金が約2.8億円残る見込み、それから平成29年度時点の一般被保険者の医療分の単年度収支は約4.7億円の赤字、平成30年度には単年度収支は更に悪化する見込みであるということについて、事務局から説明をいただきました。このことについて何かご質問、ご意見などございませんでしょうか。
西川委員、どうぞ。

西川 委員

5ページ目のところですけど、一人当たりの療養給付費の見込みについてですが、療養給付費の伸び率を計算する際に、26年度から28年度の一人当たりの平均医療費の伸び率が利用されていますが、超高額薬剤を利用され始めたのがかなり最近だと思いますので、最近の伸びと26年、27年度の伸びには、若干実情に差があるような気がするんですけど、その辺は大きく問題にはならないのですか。

里村 会長

事務局どうぞ。

事 務 局

西川委員のご指摘のとおり医療費を見通す上で、我々もそこが一番難しいところだと考えています。今回5ページ目のところで、階層別に28年度の医療給付費を見込んでおりますが、こちらにつきましては、医療給付費が3月から2月の診療ベースでやらせていただいているのですが、今回の平成28年度の決算見込みにつきましては、今年の3月診療から10月診療までの実績を反映させていただいておりますので、現在の超高額薬剤の動向も一定入っているというふうにご覧いただいております。ただ、その伸び率を使って、1人あたりの医療費にかけてしまうと逆に29年度の医療給付費が非常に大きくなっていくこともありまして、過去3カ年の対前年度伸び率を採用してどれくらい伸びているかというところを使わせていただき、超高額薬剤の影響も一定反映させていただいております。

事務局	<p>ですので、やはり28年度終わって見ないとなかなかわからないところがございますが、これだけ被保険者数が減っている中で医療給付費が1%増加しているということは、国保に残っている方が病気等により仕事に出られないといった部分も、一人当たりの医療費の伸びる要因につながっているのではないかなと予想するところでございます。</p>
里村 会長	<p>いかがでしょう。むしろ西川委員のおっしゃるとおり、高額な薬で医療費がどう変わるか分からない要素が増え、様々な要因を含めて予測しないとだめかもしれない、というところはあると思います。ただ、あんまり様々な要因を考えすぎるときがありませんので、この辺で考えるのが妥当かなという気はいたします。</p> <p>他にご意見とかご質問ございませんでしょうか。</p> <p>高い薬が何に適用されるか、ひとつ増えるだけでどんどん変わってくると思います。それもいつかはわからない、ある意味恐ろしさもあります。</p> <p>阪部委員、どうぞ。</p>
阪部 委員	<p>来年度から一般薬を薬局で買ったら、税金が返ってくるような制度が始まると聞いています。そういったことに関する国保会計への影響はどうなんですか。お医者さんに行くのと変わらないのか、一般薬で買う人が多くなるのか、医療費がそれに対してどう変わってくるのかなと思ひまして。その辺を聞きたいんですけど。</p>
里村 会長	<p>事務局いかがでしょう。</p>
事務局	<p>大変不勉強で申し訳ないんですけども、ご質問についてお答えする情報を持ち合わせておりません。申し訳ございません。</p>
里村 会長	<p>来年から始まるんですね。ただ、医療機関に行って貰う方がやはり多いかなという気はしますけども、その辺りは現実問題、始まって見ないと見えてきませんね。ただ、今現在、市販されているもので病院で貰う方も多いことを考えると、お客さんは少ないのかなというような気はします。</p>
阪部 委員	<p>あまりPRとかはされてないみたいですが、たまたまこんながあると聞きましたもので。</p>

里村 会長	たぶん本格的に決まると医療費を下げるため、下げさせてくれと大々的に広告すると思うんですけどね。
阪部 委員	まだこれからの問題ですね。
里村 会長	いかがでしょうか。他に何かございませんでしょうか。 どうそ、上村委員。
上村 委員	8ページのですね、収支見通しを見ると、平成28年度から次年度もそうなんですけども、一般分はもう構造的な問題となっていると考えられると。そうすると、先ほどお話がありましたが、今後保険税率をどうするかということも考えなければならぬ。そのような認識です。どのタイミングでするかというのは今年度については、それはそこまでは考えずに平成30年あたりの状況を見ながら対応をとるといような形でしょうか。事務局としてはどう考えていますか。
里村 会長	事務局いかがでしょう。
事務局	もちろん、運営協議会の中でそういった方向性を決めていただくため、我々としては可能な限り、正確な収支見通しをお出ししてご審議いただきたいと思っております。あえて事務局の意見を述べさせてもらうといたしましたら、上村委員がおっしゃられていましたように、現時点では県単位化後の納付金や標準保険料率が不明でありますため、平成29年度は保険税率等は据え置く方向とし、平成30年度には、県から提示される納付金や標準保険料率を参考にしながら、超高額医療費の影響を踏まえた医療費の動向、被保険者数の動向、財政調整基金の積み手手金などを考慮しながら、被保険者の保険税負担のあり方について検討することになるのではないかと考えております。
里村 会長	上村委員いかがでしょう。
上村 委員	わかりました。
里村 会長	たぶん事務局としては平成29年度で単年度収支は赤字になるけれども、財政調整基金を活用することで、税率等はとりあえずそのままでもいいというふうに考えさせてもらってよろしいでしょうか。
事務局	その通りです。